

◎ 所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための
 の日本国とフィンランド共和国との間の条約

(略称) フィンランドとの租税(所得) 条約

昭和四十七年 二月二十九日 ヘルシンキで署名
 昭和四十七年 五月二十三日 国会承認
 昭和四十七年十一月二十八日 批准の閣議決定
 昭和四十七年十一月三十日 東京で批准書交換
 昭和四十七年十二月十二日 公布及び告示
 (条約第十号)
 昭和四十七年十二月三十日 効力発生

目次	ページ
前文	一六一
第一条 人的範囲	一六一
第二条 対象となる租税	一六一
第三条 定義	一六二

フィンランドとの租税(所得) 条約

フィンランドとの租税（所得）条約

第四 条	締約国の居住者	一六四
第五 条	恒久的施設	一六四
第六 条	不動産に係る所得	一六六
第七 条	企業又は恒久的施設の利得	一六七
第八 条	船舶又は航空機に係る利得	一六九
第九 条	特殊関係企業に係る利得	一六九
第十 条	配当	一七〇
第十一 条	利子	一七二
第十二 条	使用料	一七三
第十三 条	譲渡収益	一七五
第十四 条	自由職業の所得	一七六
第十五 条	勤務に対する報酬	一七六
第十六 条	役員の報酬	一七七
第十七 条	芸能人等の所得	一七八
第十八 条	退職年金	一七八
第十九 条	公務遂行に係る報酬	一七八
第二十 条	教育又は研究に係る報酬	一七九
第二十一 条	学生又は事業修習者への給付金	一八〇

第二十二條	その他の所得	一八〇
第二十三條	二重課税の排除方法	一八一
第二十四條	内国民待遇	一八二
第二十五條	不服申立て及び両国当局間の協議	一八三
第二十六條	情報交換	一八四
第二十七條	徴収共助	一八五
第二十八條	外交官及び領事官の特権	一八五
第二十九條	批准、効力発生及び適用の開始	一八五
第三十條	条約の終了及び適用の終了時期	一八六
末　　文		一八六

○所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のため

の日本国とフィンランド共和国との間の条約に関する交換公文	一八八
フィンランド側書簡	一八八
条約第四条２の規定の運用に関する了解	一八八
日本側書簡	一八九

所得に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のための日本国とフィンランド共和国との間の条約

日本国及びフィンランド共和国は、

所得に対する租税に関し、二重課税を回避し及び脱税を防止するための条約を締結することを希望して、

次のとおり協定した。

第一条

この条約は、一方又は双方の締約国の居住者である者に適用する。

人的範囲

第二条

対象となる租税

1 この条約の対象である租税は、次のものとする。

- (a) 日本国においては、
 - (i) 所得税
 - (ii) 法人税
 - (iii) 住民税
- (以下「日本国の租税」という。)
- (b) フィンランドにおいては、
 - (i) 国税である所得税
 - (ii) 地方税である所得税
 - (iii) 教会税

フィンランドとの租税（所得）条約

CONVENTION BETWEEN JAPAN AND THE REPUBLIC OF FINLAND FOR THE AVOIDANCE OF DOUBLE TAXATION AND THE PREVENTION OF FISCAL EVASION WITH RESPECT TO TAXES ON INCOME

Japan and the Republic of Finland,

Desiring to conclude a Convention for the avoidance of double taxation and the prevention of fiscal evasion with respect to taxes on income,

Have agreed as follows:

Article 1

This Convention shall apply to persons who are residents of one or both of the Contracting States.

Article 2

1. The taxes which are the subject of this Convention are:

- (a) In Japan:
 - (i) the income tax;
 - (ii) the corporation tax; and
 - (iii) the local inhabitant taxes (hereinafter referred to as "Japanese tax").
- (b) In Finland:
 - (i) the State income tax;
 - (ii) the communal income tax;
 - (iii) the church tax; and

(iv) 船員税

(以下「フィンランドの租税」という。)

2 この条約は、¹に掲げる租税に加えて又はこれに代わつてその後課される租税であつて¹に掲げる租税と同一の又はこれと実質的に類似するものについても、また、適用する。両締約国の権限のある当局は、それぞれの国の税法について行なわれた改正を、その改正後の妥当な期間内に、相互に通知する。

3 この条約は、第八条2の規定に関する場合に限り、同条2の租税についても、また、適用する。

第三条

1 この条約において、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、

- (a) 「日本国」とは、地理的意味で用いる場合には、日本国の租税に関する法令が施行されているすべての領域をいう。
- (b) 「フィンランド」とは、フィンランド共和国をいう。
- (c) 「一方の締約国」及び「他方の締約国」とは、文脈により、日本国又はフィンランドをいう。
- (d) 「租税」とは、文脈により、日本国の租税又はフィンランドの租税をいう。
- (e) 「者」とは、個人、法人及び法人以外の団体をいう。

(iv) the sailors' tax
(hereinafter referred to as "Finnish tax").

2. This Convention shall also apply to any identical or substantially similar taxes which are subsequently imposed in addition to, or in place of, those referred to in the preceding paragraph. The competent authorities of the Contracting States shall notify to each other any changes which have been made in their respective taxation laws within a reasonable period of time after such changes.

3. With respect to paragraph 2 of Article 8 only, this Convention shall also apply to the taxes referred to in that paragraph.

Article 3

1. In this Convention, unless the context otherwise requires:

- (a) the term "Japan", when used in a geographical sense, means all the territory in which the laws relating to Japanese tax are in force;
- (b) the term "Finland" means the Republic of Finland;
- (c) the terms "a Contracting State" and "the other Contracting State" mean Japan or Finland, as the context requires;
- (d) the term "tax" means Japanese tax or Finnish tax, as the context requires;
- (e) the term "person" means an individual, a company and any other body of persons;

(f) 「法人」とは、法人格を有する団体又は租税に關し法人格を有する団体として取り扱われる団体をいう。

(g) 「一方の締約国の企業」及び「他方の締約国の企業」とは、それぞれ一方の締約国の居住者が営む企業及び他方の締約国の居住者が営む企業をいう。

(h) 「国民」とは、

(i) 日本国については、日本国の国籍を有するすべての個人並びに日本国の法令に基づいて設立され又は組織されたすべての法人及び法人格を有しないが日本国の租税に關し日本国の法令に基づいて設立され又は組織された法人として取り扱われるすべての団体をいう。

(ii) フィンランドについては、フィンランドの国籍を有するすべての個人並びにフィンランドにおいて施行されている法令によつてその地位を与えられたすべての法人、組合及び団体をいう。

(i) 「権限のある当局」とは、日本国については、大蔵大臣又は権限を与えられたその代理者をいい、フィンランドについては、大蔵省又は権限を与えられたその代理者をいう。

2 一方の締約国におけるこの条約の適用上、この条約において特に定義されていない用語は、文脈により別に解釈すべき場合を除くほか、この条約の対象である租税に關する当該一方の締約国の法令上有する意義を有するものとする。

(f) the term "company" means any body corporate or any entity which is treated as a body corporate for tax purposes;

(g) the terms "enterprise of a Contracting State" and "enterprise of the other Contracting State" mean respectively an enterprise carried on by a resident of a Contracting State and an enterprise carried on by a resident of the other Contracting State;

(h) the term "nationals" means:

(i) in respect of Japan: all individuals possessing the nationality of Japan and all juridical persons created or organised under the laws of Japan and all organisations without juridical personality treated for the purposes of Japanese tax as juridical persons created or organised under the laws of Japan;

(ii) in respect of Finland: all individuals possessing the nationality of Finland, and all legal persons, partnerships and associations deriving their status as such from the laws in force in Finland;

(i) the term "competent authority" means, in the case of Japan, the Minister of Finance or his authorised representative, and, in the case of Finland, the Ministry of Finance or its authorised representative.

2. As regards the application of this Convention in a Contracting State any term not otherwise defined in this Convention shall, unless the context otherwise requires, have the meaning which it has under the laws of that Contracting State relating to the taxes which are the subject of this Convention.

第四条

Article 4

1 この条約の適用上、「一方の締約国の居住者」とは、当該一方の締約国の法令の下において、住所、居所、本店又は主たる事務所の所在地、管理の場所その他これらに類する基準により当該一方の締約国において課税を受けるべきものとされる者という。

2 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる個人については、権限のある当局は、合意により、この条約の適用上その個人が居住者であるとみなされる締約国を決定する。

3 1の規定によつて双方の締約国の居住者となる者で個人以外のものは、その者の本店又は主たる事務所が存在する締約国の居住者とみなす。

第五条

Article 5

1 この条約の適用上、「恒久的施設」とは、事業を行なう一定の場所であつて企業がその事業の全部又は一部を行なつているものをいう。

2 「恒久的施設」には、特に、次のものを含む。

- (a) 管理所
- (b) 支店
- (c) 事務所
- (d) 工場
- (e) 作業場

1. For the purposes of this Convention, the term "resident of a Contracting State" means any person who, under the laws of that Contracting State, is liable to taxation therein by reason of his domicile, residence, place of head or main office, place of management or any other criterion of a similar nature.

2. Where by reason of the provisions of paragraph 1 an individual is a resident of both Contracting States, then the competent authorities shall determine by mutual agreement the Contracting State of which that individual shall be deemed to be a resident for the purposes of this Convention.

3. Where by reason of the provisions of paragraph 1 a person other than an individual is a resident of both Contracting States, then it shall be deemed to be a resident of the Contracting State in which its head or main office is situated.

1. For the purposes of this Convention, the term "permanent establishment" means a fixed place of business in which the business of the enterprise is wholly or partly carried on.

2. The term "permanent establishment" shall include especially:

- (a) a place of management;
- (b) a branch;
- (c) an office;
- (d) a factory;
- (e) a workshop;

- (f) 鉱山、採石場その他天然資源を採取する場所
(g) 建築工事現場又は建設若しくは組立ての工事で、十二箇月をこえる期間存続するもの

3 「恒久的施設」については、次のことは、含まれないものとする。

- (a) 企業に属する物品又は商品の保管、展示又は引渡しのためにのみ施設を使用すること。
(b) 企業に属する物品又は商品の在庫を保管、展示又は引渡しのためにのみ保有すること。
(c) 企業に属する物品又は商品の在庫を他の企業による加工のためにのみ保有すること。
(d) 企業のために物品若しくは商品を購入し又は情報を収集することのみを目的として、事業を行なう一定の場所を保有すること。

- (e) 企業のために広告、情報の提供、科学的調査その他これらに類する準備的又は補助的な性質の活動を行なうことを目的として、事業を行なう一定の場所を保有すること。

4 一方の締約国内で他方の締約国の企業に代わつて行動する者（5の規定が適用される独立の地位を有する代理人を除く）であつて、当該一方の締約国内で、当該企業の名において契約を締結する権限を有し、かつ、これを常習的に行使するものは、当該一方の締約国内の恒久的施設とされる。ただし、

フィンランドとの租税（所得）条約

- (f) a mine, quarry or other place of extraction of natural resources;
(g) a building site or construction or assembly project which exists for more than twelve months.

3. The term "permanent establishment" shall not be deemed to include:

- (a) the use of facilities solely for the purpose of storage, display or delivery of goods or merchandise belonging to the enterprise;
(b) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of storage, display or delivery;
(c) the maintenance of a stock of goods or merchandise belonging to the enterprise solely for the purpose of processing by another enterprise;
(d) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of purchasing goods or merchandise, or for collecting information, for the enterprise;
(e) the maintenance of a fixed place of business solely for the purpose of advertising, for the supply of information, for scientific research or for similar activities which have a preparatory or auxiliary character, for the enterprise.

4. A person acting in a Contracting State on behalf of an enterprise of the other Contracting State--other than an agent of an independent status to whom paragraph 5 applies--shall be deemed to be a permanent establishment in the first-mentioned Contracting State if he has, and habitually exercises in that first-mentioned Contracting State, an authority to

その者の行動が当該企業のために物品又は商品を購入することに限られる場合は、この限りでない。

5 一方の締約国の企業は、仲立人、問屋その他の独立の地位を有する代理人でこれらの者としての業務を通常の方法で行なうものを通じて他方の締約国内で事業活動を行なっているという理由のみでは、当該他方の締約国内に恒久的施設を有するものとされることはない。

6 一方の締約国の居住者である法人が、他方の締約国の居住者である法人若しくは他方の締約国内で恒久的施設を通じて若しくは通じないで事業を行なう法人を支配し、又はこれらに支配されているという事実のみによつては、いずれの一方の法人も、他方の法人の恒久的施設であることとはならない。

第六条

不動産に係る所得

1 不動産から生ずる所得に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

2 (a) 「不動産」の定義は、(b) 及び (c) の規定に従うことを条件として、当該財産が存在する締約国の法令によるものとする。

(b) 「不動産」には、いかなる場合にも、不動産に附属する財産、農業又は林業に用いられている家畜類及び設備、不動産に関する一般法の規定の適用がある権利、不動産用益権並びに鉱石、水その他の天然資源の採取又は採取の権利の対価として料金（その金額が確定しているかどうかを問

conclude contracts in the name of the enterprise, unless his activities are limited to the purchase of goods or merchandise for the enterprise.

5. An enterprise of a Contracting State shall not be deemed to have a permanent establishment in the other Contracting State merely because it carries on business in that other Contracting State through a broker, general commission agent or any other agent of an independent status, where such persons are acting in the ordinary course of their business.

6. The fact that a company which is a resident of a Contracting State controls or is controlled by a company which is a resident of the other Contracting State, or which carries on business in that other Contracting State (whether through a permanent establishment or otherwise), shall not of itself constitute either company a permanent establishment of the other.

Article 6

1. Income from immovable property may be taxed in the Contracting State in which such property is situated.

2. (a) The term "immovable property" shall, subject to the provisions of subparagraphs (b) and (c) below, be defined in accordance with the laws of the Contracting State in which the property in question is situated.

(b) The term "immovable property" shall in any case include property accessory to immovable property, livestock and equipment used in agriculture and forestry, rights to which the provisions of general law respecting immovable property apply, usufruct of immovable property and rights to variable or

わない。)を受け取る権利を含む。

(c) 船舶及び航空機は、不動産とはみなさない。

3 不動産の所有を目的としかつ不動産を主たる資産とする法人又は協同組合の株式又は持分(当該法人又は協同組合の株式又は持分のすべてが当該法人又は協同組合の所有する不動産又はその一部を占有する権利を法律上与えるものである場合に限り)から生ずる所得(第十条の規定が適用されるものを除く。)に対しては、当該不動産が存在する締約国において租税を課することができる。

4 1の規定は、不動産の直接使用、賃貸その他のすべての形式による使用から生ずる所得について適用する。

5 1及び4の規定は、企業の不動産から生ずる所得及び自由職業を行なうために使用される不動産から生ずる所得についても適用する。

第七条

1 一方の締約国の企業の利得に対しては、その企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なわないう限り、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なう場合には、その企業の利得のうち当該恒久的施設に帰せられる部分に対してのみ、当該他方の締約国において租税を課

fixed payments as consideration for the working of, or the right to work, mineral deposits, sources and other natural resources.

(c) Ships and aircraft shall not be regarded as immovable property.

3. Subject to the provisions of Article 10, income from shares in a company, including rights in a cooperative society, the purpose of which is to own immovable property and the assets of which consist mainly of such property may be taxed in the Contracting State in which the immovable property is situated, provided that all shares in the company or all rights in the cooperative society legally entitle to the occupation of immovable property or part thereof owned by the company or the cooperative society.

4. The provisions of paragraph 1 shall apply to income derived from the direct use, letting, or use in any other form of immovable property.

5. The provisions of paragraphs 1 and 4 shall also apply to the income from immovable property of an enterprise and to income from immovable property used for the performance of professional services.

Article 7

1. The profits of an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State unless the enterprise carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein. If the enterprise carries on business as aforesaid, the profits of the enterprise may be taxed in that other Contracting State but only so much of them as is attributable to that permanent establishment.

することができらる。

2 一方の締約国の企業が他方の締約国内にある恒久的施設を通じて当該他方の締約国内で事業を行なう場合には、当該恒久的施設が同一又は類似の条件で同一又は類似の活動を行ない、かつ、当該恒久的施設を有する企業と、全く独立の立場で、取引を行なう別個のかつ分離した企業であるとしたならば、当該恒久的施設が取得したとみられる利得が、各締約国において当該恒久的施設に帰せられるものとする。

3 恒久的施設の利得を決定するにあつては、経営費及び一般管理費を含む費用でその恒久的施設のために生じたものは、その恒久的施設が存在する締約国内で生じたか他の場所において生じたかを問わず、損金に算入することを認められる。

4 2の規定は、恒久的施設に帰せられるべき利得を企業の利得の総額の当該企業の各構成部分への配分によつて決定する慣行が一方の締約国において行なわれている場合には、その締約国が租税を課されるべき利得をその慣行とされている配分の方法によつて決定することを妨げるものではない。ただし、用いられる配分の方法は、その方法によつて得た結果がこの条に定める原則に適合するようなものでなければならぬ。

5 恒久的施設が企業のために行なつた物品又は商品の単なる購入を理由としては、いかなる利得も、その恒久的施設に帰せられることはない。

2. Where an enterprise of a Contracting State carries on business in the other Contracting State through a permanent establishment situated therein, there shall in each Contracting State be attributed to that permanent establishment the profits which it might be expected to make, if it were a distinct and separate enterprise engaged in the same or similar activities under the same or similar conditions and dealing wholly independently with the enterprise of which it is a permanent establishment.

3. In the determination of the profits of a permanent establishment, there shall be allowed as deductions expenses which are incurred for the purposes of the permanent establishment including executive and general administrative expenses so incurred, whether in the Contracting State in which the permanent establishment is situated or elsewhere.

4. Insofar as it has been customary in a Contracting State to determine the profits to be attributed to a permanent establishment on the basis of an apportionment of the total profits of the enterprise to its various parts, nothing in paragraph 2 shall preclude that Contracting State from determining the profits to be taxed by such an apportionment as may be customary; the method of apportionment adopted shall, however, be such that the result shall be in accordance with the principles laid down in this Article.

5. No profits shall be attributed to a permanent establishment by reason of the mere purchase by that permanent establishment of goods or merchandise for the enterprise.

6 1 から 5 までの規定の適用上、恒久的施設に帰せられる利得は、毎年同一の方法によつて決定する。ただし、別の方法を用いることについて正当な理由がある場合は、この限りでない。

7 他の条で別個に取り扱われている種類の所得が企業の利得に含まれる場合には、当該他の条の規定は、この条の規定によつて影響されることはない。

第八条

1 一方の締約国の企業が船舶又は航空機を国際運輸に運用することによつて取得する利得に対しては、当該一方の締約国においてのみ租税を課することができる。

2 フィンランドの居住者である企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することについて、日本国において事業税を免除されるものとし、日本国の居住者である企業は、船舶又は航空機を国際運輸に運用することについて、フィンランドにおいて資本税を免除される。

3 1 及び 2 の規定は、船舶又は航空機を国際運輸に運用する企業がいかなる種類の共同計算、共同経営又は国際経営共同体に参加している場合についても、同様に適用する。

第九条

フィンランドとの租税（所得）条約

6. For the purposes of the preceding paragraphs, the profits to be attributed to the permanent establishment shall be determined by the same method year by year unless there is good and sufficient reason to the contrary.

7. Where profits include items of income which are dealt with separately in other Articles of this Convention, then the provisions of those Articles shall not be affected by the provisions of this Article.

Article 8

1. Profits from the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise of a Contracting State shall be taxable only in that Contracting State.

2. In respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise which is a resident of Finland, that enterprise shall be exempt from the enterprise tax in Japan, and in respect of the operation of ships or aircraft in international traffic carried on by an enterprise which is a resident of Japan, that enterprise shall be exempt from the capital tax in Finland.

3. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall likewise apply in respect of participations in pools, in a joint business or in an international operations agency of any kind by enterprises engaged in the operation of ships or aircraft in international traffic.

Article 9

Where

特殊関係
企業に係る
利得

配当

- (a) 一方の締約国の企業が他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合又は
- (b) 同一の者が一方の締約国の企業及び他方の締約国の企業の経営、支配若しくは資本に直接若しくは間接に参加している場合

であつて、そのいずれの場合においても、双方の企業の間に、その商業上又は資金上の関係において独立の企業の間に設けられる条件と異なる条件が設けられ又は課されているときは、その条件がないとしたならば一方の企業の利得となつたとみられる利得であつてその条件のために当該一方の企業の利得とならなかつたものに対しては、これを当該一方の企業の利得に算入して租税を課することができる。

第十条

- 1 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国の居住者に支払う配当に対しては、当該他方の締約国において租税を課することができる。
- 2 1の配当に対しては、これを支払う法人が居住者である締約国において、その締約国の法令に従つて租税を課することができる。その租税の額は、次のものをこえないものとする。
- (a) 当該配当の受領者が、利得の分配に係る事業年度の終了に先だつ六箇月の期間を過ぎ、当該配当を支払う法人の議

- (a) an enterprise of a Contracting State participates directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of the other Contracting State, or
- (b) the same persons participate directly or indirectly in the management, control or capital of an enterprise of a Contracting State and an enterprise of the other Contracting State,

and in either case conditions are made or imposed between the two enterprises in their commercial or financial relations which differ from those which would be made between independent enterprises, then any profits which would, but for those conditions, have accrued to one of the enterprises, but, by reason of those conditions, have not so accrued, may be included in the profits of that enterprise and taxed accordingly.

Article 10

1. Dividends paid by a company which is a resident of a Contracting State to a resident of the other Contracting State may be taxed in that other Contracting State.
2. However, such dividends may be taxed in the Contracting State of which the company paying the dividends is a resident, and according to the laws of that Contracting State, but the tax so charged shall not exceed:
- (a) 10 per cent of the gross amount of the dividends if the recipient is a company which owns at least 25 per cent of the

決権のある株式の少なくとも二十五パーセントを所有する法人である場合には、当該配当の金額の十パーセント

(b) その他のすべての場合には、当該配当の金額の十五パーセント

この2の規定は、配当に充てられる利得についての当該法人に対する課税に影響を及ぼすものではない。

この条において、「配当」とは、株式その他利得の分配を受ける権利（信用に係る債権を除く）から生ずる所得及びその他の持分から生ずる所得であつて分配を行なう法人が居住者である締約国の税法上株式から生ずる所得と同様に取扱いされるものをいう。

4 1及び2の規定は、一方の締約国の居住者である配当の受領者が、その配当を支払う法人が居住者である他方の締約国内にその配当の支払の基因となつた株式その他の持分と実質的に関連する恒久的施設を有する場合には、適用しない。この場合には、第七条の規定を適用する。

5 一方の締約国の居住者である法人が他方の締約国から利得又は所得を取得する場合には、当該他方の締約国は、その法人が当該他方の締約国の居住者でない者に支払う配当及びその法人の留保所得については、これらの配当及び留保所得の全部又は一部が当該他方の締約国内で生じた利得又は所得から成るときも、当該配当に対していかなる租税をも課することができず、また、当該留保所得に対して留保所得税を課することができない。

voting shares of the company paying such dividends during the period of six months immediately before the end of the accounting period for which the distribution of profits takes place; (b) in all other cases, 15 per cent of the gross amount of the dividends.

This paragraph shall not affect the taxation of the company in respect of the profits out of which the dividends are paid.

3. The term "dividends" as used in this Article means income from shares or other rights, not being debt-claims, participating in profits, as well as income from other corporate rights assimilated to income from shares by the taxation laws of the Contracting State of which the company making the distribution is a resident.

4. The provisions of paragraphs 1 and 2 shall not apply if the recipient of the dividends, being a resident of a Contracting State, has in the other Contracting State, of which the company paying the dividends is a resident, a permanent establishment with which the holding by virtue of which the dividends are paid is effectively connected. In such a case, the provisions of Article 7 shall apply.

5. Where a company which is a resident of a Contracting State derives profits or income from the other Contracting State, that other Contracting State may not impose any tax on the dividends paid by the company to persons who are not residents of that other Contracting State, or subject the company's undistributed profits to a tax on undistributed profits, even if the dividends paid or the undistributed profits consist wholly or partly of profits or income arising in that other Contracting State.